

## 綿100%上衣の取扱い絵表示の実態調査

Investigation of Care Labels for Textile Fixed on Cotton 100% Upper Garments

福澤 素子      水原 美咲      本田 裕美

Motoko FUKUZAWA      Misaki MIZUHARA      Yumi HONDA  
家政教育講座      九州女子大学家政学部      長崎県立西彼杵高等学校(非)  
(平成17年9月30日受理)

### Abstract

The purpose of this study is to clarify the realities of care labels for textile fixed on cotton 100% upper garments. Their care labels for textile were investigated based on JIS L 0217 according to kind of upper garments, how to wash, right or wrong of the chlorine bleaching, how to iron, dry cleaning, how to dehydrate, how to dry, attention label, structure of the cloth, and design (presence of print and color).

Result : ①The labels of hand wash and no wash accounted for 44% among 100 upper garments. Weave was fixed the label of machine wash, knitted structure was hand wash. ②The rate of the iron label added pressing sheet rose as brightness lowered. ③The label of dry cleaning was fixed with hand wash, and on garments knitted structure, printed or lower brightness.

### 1. 緒言

我々消費者は目的にあった衣料品を手に入れるために、用途、種類、素材、外観など多種多様な衣料品の中から適切な選択を行わなければならない。その際に製品の性能、取扱い方法、用途や価格の妥当性を判断するめやすとなるのが、既製品に取り付けられている品質表示であり、中学校・高等学校家庭の教科書においても、品質表示を見て衣服の選択や管理を行うよう記述されている。繊維製品には、家庭用品品質表示法による繊維の組成表示や取扱い絵表示などのほか、不当景品類および不当表示防止法に基づく原産国表示、工業標準化法に基づくサイズ表示、ザ・ウール・カンパニーのウールマークや防災協会の防災商品ラベルなどの業界団体などが定める基準による品質保証マーク、各企業などの取扱い注意表示やデメリット表示など、さまざまな表示が取り付けられている。その中でも、被服材料を示す組成表示は着心地や手入れに関する基本的な判断材料となり、取扱い絵表示は被服管理に役立っていると考えられる。

一方、最近の繊維加工や改良の技術革新はめざましく、差別化素材の開発や異種繊維の混紡、さ

らにポリエステル繊維による「新合繊」の登場など、付加価値を高めた高級で個性のある特殊機能をもった新しい繊維の開発が活発に行われており、一般の消費者には衣料品の外観から適切な選択や取扱いを行うことは難しくなっている。筆者らが平成7年に実施した調査<sup>1)</sup>でも、同様の素材で同様のデザインの衣服であっても全く異なった表示が取り付けられていたり、シンプルなポリエステルのワンピースが「水洗いはできない」表示になっていたり、アイロンの掛け方についても綿素材に対して「アイロン掛けはできない」と表示されているなど、本来の被服材料の性質とは異なる表示が取り付けられている衣服が多数見られており、表示の妥当性に疑問を持つ者も少なくない。また、麻ジャケットのクリーニング仕上げの有効性についての実験において、必ずしも表示どおりの処理の仕方が良いとは言えないとの結果<sup>2)</sup>を得ており、消費者は衣料品の手入れを表示どおりに行って良いのか否か手探りの状態であるといっても過言ではない。

また、最近では「ドライマーク用」や「おしゃれ着用」洗剤がヒット商品になり、大半の全自動洗濯機では「おうちクリーニング」や「ドライコ

ース」といった洗濯槽や回転翼によって水流の調節ができる機能やつけ置きなどの機能が備えられていることから、「水洗いはできない」や「ドライクリーニングができる」表示のある衣料品を家庭で洗濯するケースが一般化してきていると考えられ、アパレルメーカーの過剰な表示への反発や不信感もうかがえる。「実際に『水洗い不可』表示の衣料数点を洗ってみても収縮率や染色の点で『問題ない』との結果が出たものもあり、『手洗い表示』を再検討し、過剰な『水洗い不可』表示も見直ししてほしいと消費者の立場にたった表示の適正化」<sup>3)</sup>が求められている。

綿は、伸びにくく丈夫であり、吸湿性に富み湿強度が大きく、比較的耐熱性が高いなど様々な優れた性質を持っており、その性質を利用して、耐洗濯性が必要な肌着類やタオル、アイロン仕上げの耐熱性が必要なワイシャツやブラウスなど様々な製品が作られ、天然繊維の中でも身近で扱いやすい繊維であるという認識を消費者はもっている。そこで本研究では、衣料品に取り付けられている取扱い絵表示の実態を明らかにすることを目的として、綿に焦点をあて、JIS L0217（繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法）に沿って綿100%の上衣に取り付けられている取扱い絵表示の調査を行った。

## 2. 方法

今回調査の対象とした衣料は、品質表示に綿100%と表示され、日常着用し洗濯を繰り返している手持ちの上衣100枚である。調査項目は服の種類、組成表示、取扱い絵表示、注意表示、布の組織、デザイン（プリント・刺繍・染色の有無、色名）である。色名は新配色カード199a（日本色彩研究所）を用い、実際の衣服で視覚判定した。予備調査によりそれらの衣服に様々な表示が取り付けられていることが分かったので、組成表示、取扱い絵表示、注意表示、デザインが一目で分かるよう服全体の画像と品質表示の画像をデジタルカメラで撮影し、それらの画像と調査項目をまとめた一覧表（表1）を作成して調査に役立てた。そして、服の種類やそれぞれの調査項目との関係を明らかにするために、アンケート集計ソフト「EXCEL太閤集計編」を使用して「服の種類」、「洗い方（水洗い）」、「塩素漂白の可否」、「アイロンの掛け方」、「ドライクリーニング」、「絞り方」、「干し方」、「注意表示」、「布の組織」、「プリントの有無」、「服の色」の各データを入力し、単純集計及びクロス集計を行った。

服			
組成表示	綿 100%	綿 100%	綿 100%
取扱い絵表示			
注意表示	この製品は汗や雨などで濡れた場合他の衣料や下着に色移りする場合がありますのでご注意ください。 移染しやすいので他のものと分けて洗ってください。 タンブラー乾燥はお避け下さい。 洗濯後は形を整えて直ちに干して下さい。		タンブラー乾燥は避け、自然乾燥して下さい。 蛍光増白剤の含まれていない洗剤を使用して下さい。
布の組織	編物組織	編物組織	編物組織
デザイン	プリント × 刺繍 × 染色 ○ 色 dp14	× × ○ sf18	× × ○ dk

表1 綿100%上衣の一覧表（一部）

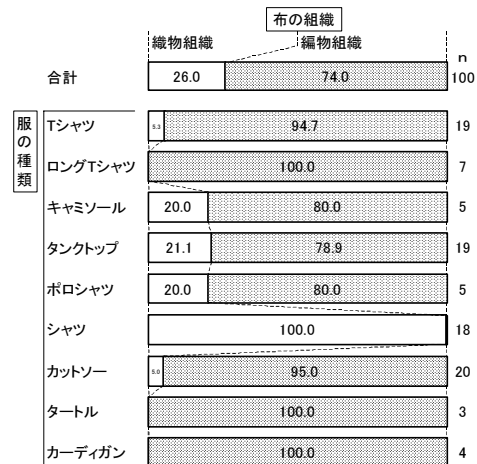


図1 綿100%上衣の種類と布の組織

## 3. 結果と考察

### 3. 1 綿100%の上衣の種類と布の組織

図1に服の種類と布の組織別の関係をクロス集計のグラフで示した。綿100%上衣の組織は「織物組織」が26.0%、「編物組織」が74.0%であった。編物組織の多い服は「Tシャツ」「ロングTシャツ」「キャミソール」「タンクトップ」「ポロシャツ」「カットソー」「タートル」「カーディガン」であり、78.9%～100.0%を占めた。「シャツ」はすべて織物組織であった。

### 3. 2 洗い方表示

#### 3. 2. 1 洗い方

図2に綿100%上衣に取り付けられている洗い

## 綿 100%上衣の取扱い絵表示の実態調査

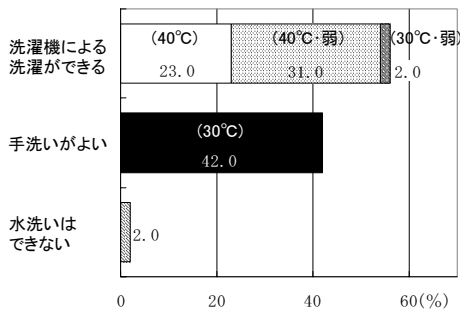


図2 洗い方表示

方の表示の割合を示した。「液温は、40℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる」表示が23.0%、「液温は、40℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗いがよい」表示が31.0%、「液温は、30℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗いがよい」表示が2.0%で、洗濯機洗いの合計は56.0%、「液温は、30℃を限度とし、弱い手洗いがよい」表示が42.0%、「水洗いはできない」表示が2.0%であった。また、洗い方表示に「ネット使用」「中性洗剤使用」「押し洗い短時間」が1つ以上付記された表示が11.0%見られた。

綿繊維は伸びにくく丈夫であり、湿潤により強度が10%前後増加する性質から、洗濯機での洗濯に耐えることができる繊維として知られている。しかし、半数近い44.0%の綿の上衣が洗濯機で洗えない表示が取り付けられていることがわかった。

### 3. 2. 2 布の組織、デザインの違いと洗い方表示

布の組織、プリントの有無、色の明度・彩度について、洗い方表示との関係をクロス集計で示した(図3)。

この図より洗い方表示を布の組織で比較すると、織物組織26枚のうち20枚(76.9%)、編物組織74枚のうち36枚(48.6%)が「洗濯機による洗濯ができる」の表示、一方織物組織が26枚のうち6枚(23.1%)、編物組織が74枚のうち36枚(48.6%)が「手洗いがよい」の表示であり、編物組織に「手洗いがよい」表示が多く見られた。織物組織は比較的丈夫な構造を得ることが可能であることから「洗濯機による洗濯ができる」表示が多く、編物組織は伸縮性があり柔軟ではあるが型崩れしやすいため「手洗いがよい」表示が多いと考えられる。また、 $\chi^2$ 検定の結果、洗い方と布の組織間に有意な関連が見られた( $P < 0.05$ )。すなわち、織物組

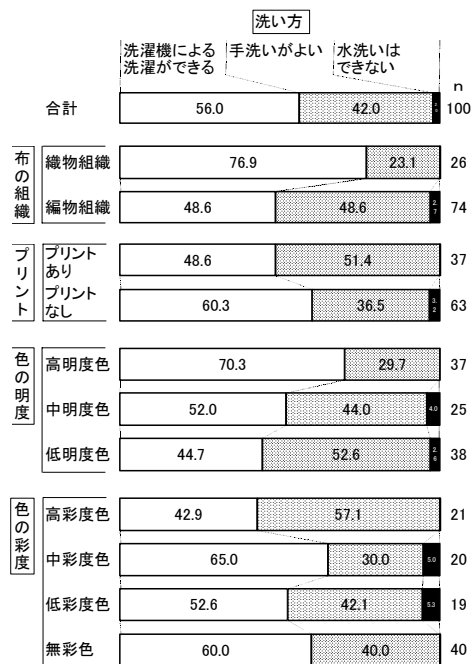


図3 洗い方表示と布の組織、プリントの有無、色の明度・彩度

織は洗濯機洗い、編物組織は手洗いの表示を表示者は選択していることが推察できる。

洗い方表示をプリントの有無で比較すると、プリントのある上衣37枚のうち19枚(51.4%)が「手洗いがよい」表示であるのに対し、プリントのない上衣は63枚のうち23枚(36.5%)であった。 $\chi^2$ 検定の結果、洗い方とプリントの有無間に有意な関連は認められなかったが( $P = 0.23$ )、プリントのある上衣が手洗いで洗うよう指示されているようである。

さらに、洗い方表示と服の色の関係を調べるために、服の色を明度と彩度が複合された表し方であるPCCSトーン分類に従って無彩色5段階、有彩色12種類に分類した。「洗濯機による洗濯ができる」の表示に「vivid」「bright」「deep」「light」「soft」「dull」「dark」「pale」「light grayish」「grayish」「dark grayish」「light Gray」「medium Gray」「Black」の14種類、「手洗いがよい」の表示には「vivid」「bright」「deep」「light」「dark」「pale」「light grayish」「grayish」「dark grayish」「dark Gray」「Black」の11種類のトーンがみられた。

上記のトーン分類をもとにして、服の色の明度をPCCSトーン分類に従い「pale」「light」「bright」

「White」「light Gray」を高明度色,「vivid」「soft」「dull」「light grayish」「grayish」「medium Gray」を中明度色,「deep」「dark」「dark grayish」「dark Gray」「Black」を低明度色にまとめ,洗い方表示を比較した。図3より「洗濯機による洗濯ができる」は高明度色の上衣37枚のうち26枚(70.3%),中明度色の上衣25枚のうち13枚(52.0%),低明度色の上衣38枚のうち17枚(44.7%)あった。 $\chi^2$ 検定の結果,洗い方と色の明度間に有意な関連は認められなかったが( $P=0.20$ ),明度が低くなるにつれて「洗濯機による洗濯ができる」表示の割合が低い。このことは洗濯での脱色や移色が現れやすい低明度色の服でのトラブルを回避するために,表示者が機械作用の少ない手洗い表示を指示していると考えられる。

同様に,洗い方表示を服の色の彩度で比較するために,服の色の彩度をPCCSトーン分類に従い「vivid」「bright」「deep」を高彩度色,「light」「soft」「dull」「dark」を中彩度色,「pale」「light grayish」「grayish」「dark grayish」を低彩度色,「White」「light Gray」「medium Gray」「dark Gray」「Black」を無彩色にまとめ,計4つに分類した。「洗濯機による洗濯ができる」表示のされた上衣は高彩度色の服21枚のうち9枚(42.9%),中彩度色の服20枚のうち13枚(65.0%),低彩度色の服19枚のうち10枚(52.6%),無彩色の服40枚のうち24枚(60.0%)あり,高彩度色の上衣は「手洗いがよい」表示の割合が57.1%と高く,中彩度色では30.0%と低いことがわかる。 $\chi^2$ 検定の結果洗い方と色の彩度間に有意な関連は認められなかったが( $P=0.41$ ),高彩度色の服は「手洗いがよい」表示が多く,中彩度色,低彩度色,無彩色の服には「洗濯機で洗うことができる」表示が多く表示されているようである。

### 3. 3 塩素漂白の可否表示

綿100%上衣に取り付けられている塩素漂白の可否の表示記号は,すべて「塩素系漂白剤による漂白はできない」であった。そのため,布の組織・デザイン・プリント・刺繍の有無,色名との関連性は見られなかった。

### 3. 4 アイロンの掛け方表示

#### 3. 4. 1 アイロンの掛け方

図4に綿100%上衣に取り付けられているアイロンの設定温度とあて布の有無についてのクロス集計の結果を示した。「アイロンは210℃を限度と

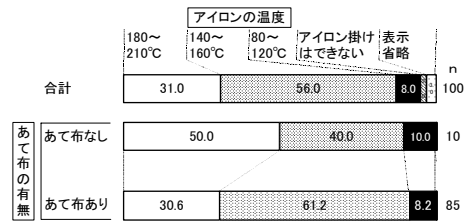


図4 アイロンの温度とあて布の有無

し,高い温度(180~210℃まで)でかけるのがよい」表示が31.0%,「アイロンは160℃を限度とし,高い温度(140~160℃まで)でかけるのがよい」表示が56.0%,「アイロンは120℃を限度とし,高い温度(80~120℃まで)でかけるのがよい」表示が8.0%,「アイロン掛けはできない」表示が2.0%,表示のないものが3.0%見られた。また,アイロン掛けができる表示のうち,「あて布なし」が10枚,「あて布あり」が85枚あった。「あて布あり」の表示の中でも,設定温度140~160℃の表示が61.2%を占めている。

#### 3. 4. 2 布の組織,デザインの違いとあて布表示

図5にあて布の有無と布の組織,プリントの有無,色の明度・彩度についてそれぞれの関係をクロス集計で示した。

あて布の有無を布の組織で比較すると,「あて布あり」は「織物組織」26枚中21枚(80.8%),「編物組織」74枚中64枚(86.5%)に見られ,織物組織と編物組織にほとんど差は見られず, $\chi^2$ 検定の結果でもあて布の有無と布の組織間には有意な関連は認められなかった( $P=0.43$ )。編物組織,織物組織にかかわらずあて布の表示が8割以上占める。

あて布の有無をプリントの有無で比較すると,「あて布あり」は「プリント有り」37枚のうち31枚(83.8%),「プリントなし」63枚のうち54枚(85.7%)に見られ,アイロンの掛け方表示のないものは3枚とも「プリントなし」であった。プリントがある場合プリント部分のアイロン掛けを注意表示において禁止しているものも多く,プリントのある衣服には「アイロン不可」表示やあて布記号が付記されていても不思議はない。しかし,プリントのない場合でも「あて布あり」表示のされた上衣が54枚(85.7%)あり,プリントの有無であて布の付記を決めているとは考えられない。 $\chi^2$ 検定においても,あて布の有無とプリントの有無間には有意な関連は見られなかった( $P=0.45$ )。

## 綿 100%上衣の取扱い絵表示の実態調査

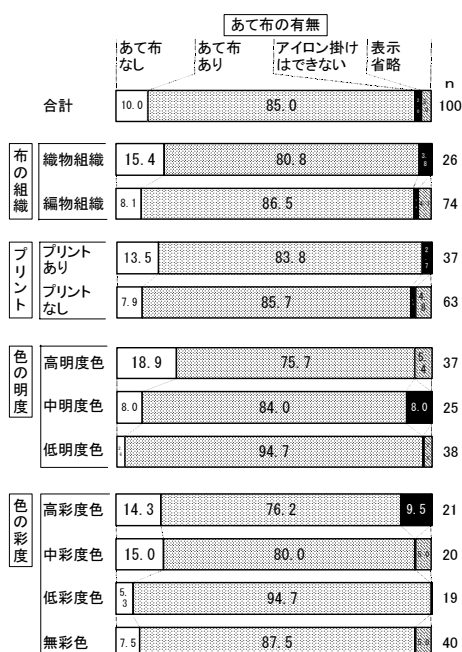


図5 アイロンのあて布表示と布の組織、プリントの有無、色の明度・彩度

あて布の有無を色の明度と比較すると、「あて布あり」表示が高明度色の上衣37枚中28枚(75.7%)、中明度色の上衣25枚中21枚(84.0%)、低明度色の上衣38枚中36枚(94.7%)に見られ、服の色の明度が低くなるにつれて「あて布あり」表示される服の割合が多くなっていた。 $\chi^2$ 検定においても、あて布の有無と色の明度間には有意な関連が認められ( $P<0.05$ )、衣服の色の明度が低くなるにつれてあて布をするよう指示されていた。

あて布の有無を色の彩度と比較すると、「あて布あり」が高彩度色の上衣21枚中16枚(76.2%)、中彩度色の上衣20枚中16枚(80.0%)、低彩度色の上衣19枚中18枚(94.7%)、無彩色の上衣40枚中35枚(87.5%)に見られ、高彩度色や中彩度色に比べ低彩度色や無彩色にあて布記号が多く付記されていた。 $\chi^2$ 検定では、あて布の有無とプリントの有無間には有意な関連は認められなかった( $P=0.24$ )。

### 3. 5 ドライクリーニング表示

#### 3. 5. 1 ドライクリーニング

綿100%上衣に取り付けられているドライクリーニングの表示のうち、「ドライクリーニングができる。溶剤はパークロロエチレン又は石油系のも

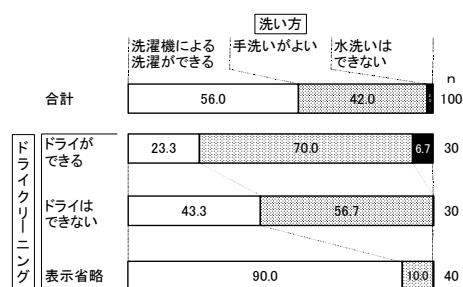


図6 ドライクリーニング表示と洗い方表示

のを使用する」と「ドライクリーニングができる。溶剤は石油系のもを使用する」を合計した「ドライクリーニングができる」表示は30.0%、「ドライクリーニングはできない」表示が30.0%、表示の省略されたものが40.0%見られた。

図6に洗い方とドライクリーニングのクロス集計の結果を示した。「ドライクリーニングができる」表示が取り付けられた上衣30枚のうち「洗濯機による洗濯ができる」表示が23.3%、「手洗いがよい」表示が70.0%、「水洗いはできない」表示が6.7%であり、「ドライクリーニングができる」表示に「手洗いがよい」表示が多く併記されていることがわかる。また、30枚中28枚の上衣は「洗濯機による洗濯ができる」表示と「手洗いがよい」表示、すなわち「水洗いができる」表示と併記されていた。「ドライクリーニングはできない」表示が取り付けられた上衣30枚のうち「洗濯機による洗濯ができる」表示が43.3%、「手洗いがよい」表示が56.7%であり、共に「水洗いができる」表示と併記されていた。また、ドライ表示が省略されている40枚はすべて「水洗いができる」表示であった。

ドライクリーニングは、いわゆる乾式洗浄であり、一般的には毛や絹などの水による洗濯に適さない物を処理するものである。JIS L0217では、水洗いができるものは「ドライクリーニングはできない」以外の表示を省略することができると定めている。しかし、今回の調査では省略することのできる70枚のうち28枚(40.0%)において「水洗いができる」表示と「ドライクリーニングができる」表示が併記されていた。

#### 3. 5. 2 布の組織、デザインの違いとドライクリーニング表示

図7にドライクリーニング表示と布の組織、プリントの有無、色の明度・彩度についてのクロス集計の結果を示した。

ドライクリーニング表示を布の組織で比較すると、「ドライクリーニングはできない」表示には織物組織が26枚のうち3枚（11.5%）、編物組織が74枚のうち27枚（36.5%）、表示が省略されたものには織物組織が26枚のうち15枚（57.7%）、編物組織が74枚のうち25枚（33.8%）あり、織物組織にはドライクリーニング表示が省略されていることが多いのに対し、編物組織は「ドライクリーニングはできない」表示の割合が高い。 $\chi^2$ 検定の結果、ドライクリーニングと布の組織間に有意な関連が見られた（ $P<0.05$ ）。

ドライクリーニング表示をプリントの有無で比較すると、「ドライクリーニングはできない」表示が「プリントあり」の上衣では37枚のうち17枚（45.9%）であったのに対し、「プリントなし」の上衣では63枚のうち13枚（20.6%）、ドライクリーニング表示の省略されたものが「プリントあり」の上衣では9枚（24.3%）であったのに対し、「プリントなし」の上衣では31枚（49.2%）であった。プリントのない上衣はドライクリーニング表示を省略する割合が高く、プリントのある上衣は「ドライクリーニングはできない」表示をする割合が高い。プリントがある衣服をドライクリーニングで洗濯した場合プリントが剥離することもあり、注意表示においてドライクリーニングを禁止しているものも多いため、プリントのある衣服に「ドライクリーニングはできない」表示がされていることは妥当である。 $\chi^2$ 検定においても、ドライクリーニングとプリントの有無間に有意な関連が認められた（ $P<0.05$ ）。

ドライクリーニング表示を色の明度で比較すると、「ドライクリーニングができる」表示は高明度色の上衣37枚のうち7枚（18.9%）、中明度色の上衣25枚のうち9枚（36.0%）、低明度色の上衣38枚のうち14枚（36.8%）あり、ドライクリーニング表示が省略されたものは高明度色の上衣18枚（48.6%）、中明度色の上衣11枚（44.0%）、低明度色の上衣11枚（28.9%）あった。 $\chi^2$ 検定の結果、洗い方と色の明度間に有意な関連は認められなかったが（ $P=0.24$ ）、この図から上衣の明度が低くなるにつれて「ドライクリーニングができる」表示のされる割合が高くなり、明度が高くなるにつれてドライクリーニング表示が省略されていることが分かる。これは、水洗いに対して洗濯堅牢度の低い染色のされた衣服が、変退色の分かりやすい明度の低い色の衣服でのトラブルを回避するために表示者がドライクリーニングを指示していると考えられる。

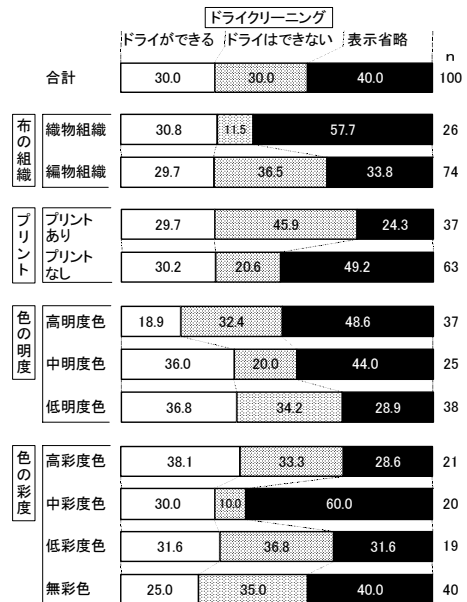


図7 ドライクリーニング表示と布の組織、プリントの有無、色の明度・彩度

ドライクリーニング表示を色の彩度で比較すると、「ドライができる」表示は高彩度色の上衣21枚のうち8枚（38.1%）、中彩度色の上衣20枚のうち6枚（30.0%）、低彩度色の上衣19枚のうち6枚（31.6%）、無彩色の上衣40枚のうち10枚（25.0%）あった。 $\chi^2$ 検定の結果、洗い方と色の彩度間に有意な関連は認められなかったが（ $P=0.30$ ）、中彩度色の衣服でドライクリーニング表示を省略されたものが多い。

### 3. 6 絞り方表示

「手絞りの場合は弱く、遠心脱水の場合は、短時間で絞るのがよい」表示が4.0%、表示のないものが96.0%見られた。絞り方表示は任意表示であり省略された衣服が96.0%見られたため、布の組織やデザインとの比較は省略した。

### 3. 7 干し方表示

「日陰の釣り干しがよい」表示が31.0%、「日陰の平干しがよい」表示が1.0%、表示のないものが68.0%見られた。干し方表示も任意表示であり、省略された衣服が約7割を占めたため、布の組織やデザインとの比較は省略した。

### 3. 8 注意表示

注意表示には、洗剤の使用に関わるものとして「蛍光洗剤の使用禁止」「塩素系漂白剤の使用禁止」「漂白剤入り洗剤の使用禁止」、洗濯方法に関わるものとして「ドライクリーニング禁止」「もみ洗い禁止」「つけ置き洗い禁止」「濡れたままの放置禁止」「他のものと分けて洗う」「短時間のすすぎ」「クリーニングネットの使用」、乾燥方法に関するものとして「タンブラー乾燥禁止」「自然乾燥」「洗濯後は形を整えすぐに干す」「形を整え陰干し」「形を整え日陰で平干し」、アイロンの掛け方に関するものとして「プリント部分のアイロン禁止」「あて布をして軽く当てる」、デザインに関するものとして「色落ちあり」「色移りあり」「移染時すぐに洗濯」「摩擦禁止」「縮みあり」「1枚1枚風合いが異なる」「ピリングあり」などがあつた。「塩素系漂白剤の使用禁止」「ドライクリーニング禁止」「陰干し」のように、取扱い絵表示と注意表示において二重に表示されているものもあつた。また、蛍光剤や漂白剤入り洗剤、乾燥機能付き洗濯機の販売に対応させて「蛍光洗剤の使用禁止」「漂白剤入り洗剤の使用禁止」「自然乾燥」の注意表示が書かれていると考えられる。注意表示のないものが22枚あつた。

### 4. まとめ

綿100%の上衣100枚とそれらに取り付けられている品質表示をデジタルカメラ撮影し、「取扱い絵表示」を「服の種類」「洗い方」「塩素漂白の可否」「アイロンの掛け方」「ドライクリーニング」「絞り方」「干し方」「注意表示」「布の組織」「デザイン（プリントの有無、服の色）」別に実態調査を行った結果、以下の結果を得た。

1) 洗い方については、42.0%の綿の上衣に手洗いの表示が取り付けられており、「水洗いできない」の表示も2.0%取り付けられていることがわかつた。今回の調査では、 $\chi^2$ 検定の結果、危険率5%で洗い方と布の組織間に有意な関連が見られた。

「洗濯機による洗濯ができる」表示は織物組織、プリント無し、高明度色、中彩度色、無彩色の上衣に、また「手洗いがよい」表示は編物組織、プリントあり、低明度色、高彩度色の服に取り付けられていた。

2) アイロンの掛け方については、 $\chi^2$ 検定の結果、危険率5%であて布の付記と色の明度間に有意な関連が見られ、明度が高くなるにつれてあて布の付記のない割合が高くなつた。

3) ドライクリーニングについては、「ドライ

クリーニングができる」表示で「洗濯機による洗濯ができる」の表示が取り付けられているものは23.3%、「手洗いがよい」の表示が取り付けられているものは70.0%で、手洗い表示にドライクリーニング表示が多く取り付けられていることがわかつた。JIS L0217では、水洗いができるものは「ドライクリーニングができない」以外の表示を省略することができるかと定めているが、「水洗いができる」表示で「ドライクリーニングはできない」以外の表示の衣服70枚のうち28枚（40.0%）において「ドライクリーニングができる」表示が併記されていた。織物組織やプリントのない服、さらに服の色の明度が高くなるにつれてドライクリーニング表示が省略されているようである。また、 $\chi^2$ 検定の結果、危険率5%でドライクリーニングとプリントの有無、布の組織間に有意な関連が見られた。

綿は伸びにくく丈夫であり、吸湿性に富み湿強度が大きく、比較的耐熱性が高いなどの性質を持ち、中学校家庭・高等学校家庭基礎の教科書においても同様の記述が見られる。しかし今回の調査では、綿本来の性質に見合う取扱い絵表示が取り付けられた衣服は少なく、布の組織やデザイン（プリントの有無、服の色）の影響を受けた表示が多いことが推測された。教育現場においても、衣服の選択や管理に関して、繊維の性能だけでなく、布の組織や加工などを総合的に考慮して取り扱うよう提案していきたい。

### 引用文献

- 1) 福澤素子：福岡教育大学紀要，第45号，第5分冊，83 - 88（1996）
- 2) 福澤素子・本田真由美：衣生活，第32巻，第6号，62 - 66（1989）
- 3) 朝日新聞，（1997年7月19日）

### 参考文献

- 1) 竹内謙二：織消誌，39，26 - 33（1998）
- 2) 消費科学研究会：織消誌，39，95 - 101（1998）
- 3) 竹内謙二：織消誌，43，812 - 818（2002）
- 4) 猪子忠徳：織消誌，30，213 - 219（1989）